

「デュトロDDF」発売へ

軽油・LPガス併用 3トﾝ車で10月登場



「メガセグ」の普及拡大に力を入れる濱崎社長
強化を図るほか、顧客へのPR活動や燃料転換を推進する。任期満了に伴う役員改選を行い、会長に南九州支部の外山俊明

エフ・ケイメカニックス

エフ・ケイメカニックス 使う配送車としての利用(本社・大分市、古川克己社長)は、今期、満を持して新型DDF(ディーゼルデュアルフューエル)軽油・LPガス併用トラックの販売を開始する。現在、試作車の開発のデュトロで、10月に3トタイプガス事業者が日常業務で



LPガス先進国ポーランドのメーカー、ヨーロッパガス社と共同開発した

する予定だ。

開発に当たり、LPガス200万台が普及する先進国ポーランドのヨーロッパガス社から、メカニカルエンジニアリングマネージャのトマス・ラジゼフスキ氏を招聘。5月28日から4日にかけて、DDF装置の装着や専用ソフトウェアのインストール作業を行った。作業は順調に進み、計画では8月末をメドに試作車を完成させた後、10月の本格発売に向け9月から実車による全国キャラバンに出発する。全国キャラバンでは顧客を直接訪問し、DDF

LPガス配送用に最適 全国ネットのメンテ体制

万が一の故障時は、簡単・適切で速やかな対応が求められる。同社では、エンジン回りはデンソーのコモンレールシステムの研究を重ね、電気



外山俊明氏



上野広氏



間ですべきことを考え、実行することが必要な。販



完成間近の試作車。左からトマス氏、通訳の原口氏、古川社長

トラックのメリットをPRし、販路開拓を図る。訪問先では積載量やパワヤリシ、さらに改良を重ねる。各県協会などが開くLPガス車関連の研修会、展示会などにも積極的に出展したい考え。「DDFトラックの最大のメリットは航続距離の長さ。LPガス専用車は、県をまたぐような長距離走行時は充填の心配があり、配送車としてはパワー不足とも感じられる。DDFトラックはコストパフォーマンスも高く、3ト車を皮切りに航続距離がさらに長い4ト車、10ト車の開発も視野に入れている」(古川社長)



深忠雄支店市の福岡市刷新、11

ノーリツ九州支店

電気を用いたエネルギー供給する企業進化を目指す方、西部